

雪崩予防柵工事での創意工夫

長野県土木施工管理技士会
中野土建株式会社
工事所長

江澤 剛志
Takeshi Ezawa

1. 適用工種

雪崩予防柵工 L=96.3m

吊柵工 H=2.4m L=4.5m N=24基

2. 改善提案

- ①吊柵工における吊ロープ端末加工の変更
- ②土中埋設部のワイヤーの保護パイプの改良

3. 従来工法の問題点

- ①吊柵メーカーにより端末加工方法は異なるが、当現場においての端末加工（接続）方法は両端末共巻付グリップ（ $L=1.1+1.2=2.3\text{m}$ ）のためそれ以上短い場合は使用出来ない。
- ②ワイヤーが土中部に埋設する様になった場合、通常の状態よりも錆が早く進行しやすくなる。

4. 工夫・改善点

- ①両端を巻付グリップを取付ける必要性は無いため、片側は片端トヨロック加工にする。
- ②黒パイプ（ $\phi 50\text{mm}$ ）を保護管とし、その中へワイヤーロープを通す。

5. 効果

- ①最短（ $L=0.2+0.02+1.28$ ）1.5m から対応出来る。
若干の施工時間が短縮出来る。
- ②ワイヤーロープの錆の進行を防止出来る。土中部施工時、オープン掘削せずたぬき掘で黒パイプを挿入出来る。
ワイヤーロープ設置時間が大幅に短縮出来る。

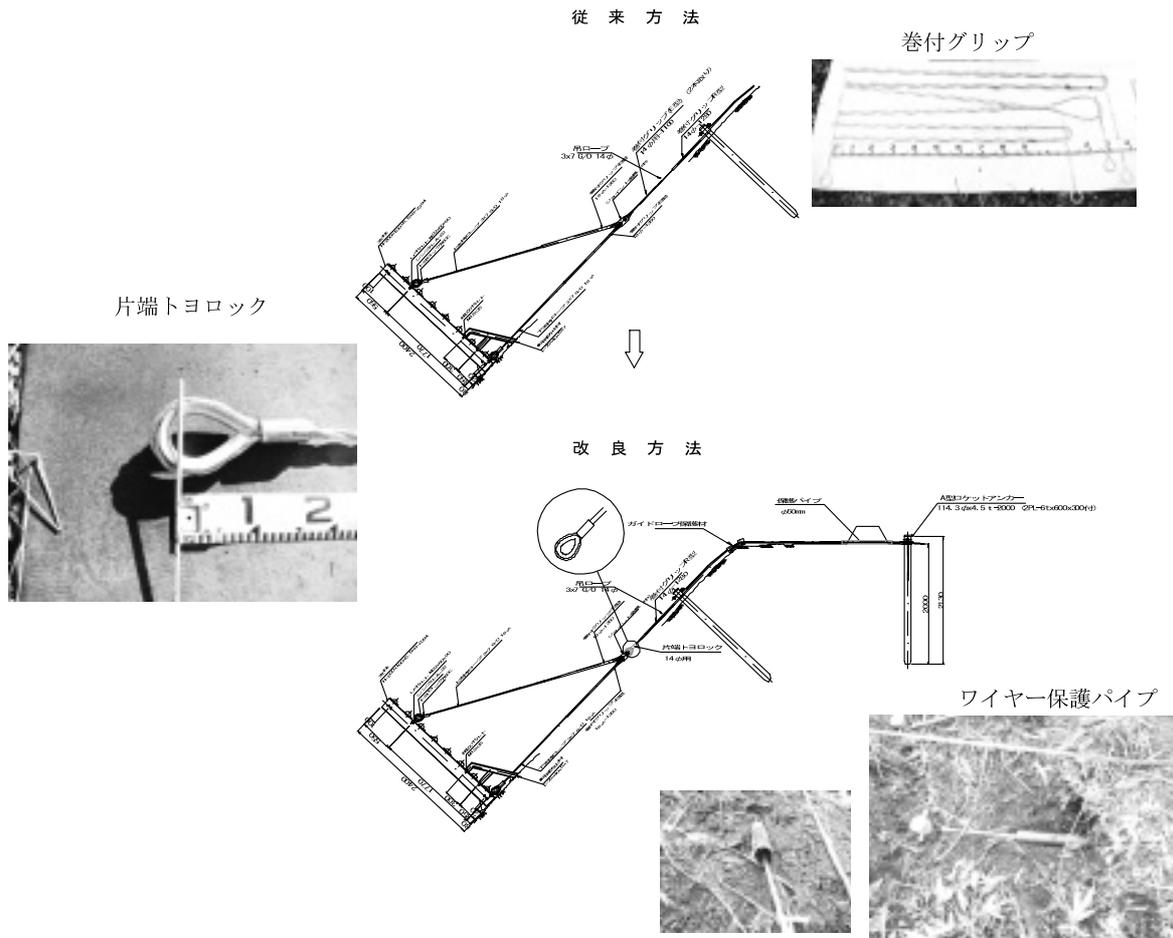


図-1

6. 適用条件

- ①巻付グリップ+片端トヨロックはどの条件においても可能
- ②起伏の無い法面においては保護の必要無し

7. 採用時の留意点

当現場は地すべり指定場所での施工のため地山を掘削してはいけなかったため現況法面なりの出来栄であったが法面整形をしての施工では立派な仕上がりになる。



写真-1